

令和4年度 第3回 川崎市社会教育委員会議・中原市民館専門部会

日 時 令和4年12月12日（月）

14時00分～

会 場 中原市民館第3・4会議室

次 第

1 開会

2 部会長あいさつ

3 資料確認

4 第2回専門部会の摘録（案）について

5 議 事

(1) 報告事項

ア 市民館の管理運営について

イ 社会教育振興事業について

ウ その他

(2) 協議事項

ア 令和5年度市民自主学級、市民自主企画事業の選考について

イ 令和4・5年度の調査審議について

ウ その他

6 その他

(1) 第4回専門部会 令和5年2月5日（日） 13:30～（予定）

(2) その他

7 閉会

資 料

資料1 令和4年度第2回川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会摘録（案）

資料2 市民館の管理運営について

資料3 中原市民館社会教育振興事業計画（令和4年度）

資料4 令和5年度市民自主学級、市民自主企画事業の選考について

参 考 各市民館専門部会の検討テーマについて

令和 4 年度 第 2 回社会教育委員会議中原市民館専門部会 会議摘録 (案)

- 【日 時】 令和 4 年 1 0 月 1 8 日 (火) 1 0 時から 1 1 時 3 0 分まで
【会 場】 中原市民館第 3 ・ 4 会議室
【出席者】 鈴木部会長、菊地副部会長、中道委員、但野委員、滝沢委員、木村委員、日吉委員
【欠席者】 梶川委員
【事務局】 石川館長、船津係長、小栗係長
【傍聴人】 1 人

専門部会の委員 8 人中 7 人が出席し、委員の過半数を満たしており、部会は成立。

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 館長あいさつ
- 4 資料確認
 - 資料 1 令和 4 年度第 1 回川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会摘録 (案)
 - 資料 2 市民館の管理運営について
 - 資料 3 中原市民館社会教育振興事業計画 (令和 4 年度)
 - 資料 4 中原区関係資料
 - 資料 5 (令和 2 ・ 3 年度) 各市民館専門部会の検討テーマについて
- 5 第 1 回専門部会の議事録 (案) について
- 6 議事
 - (1) 報告事項
 - ア 市民館の管理運営について
 - イ 社会教育振興事業について
 - ウ その他
 - (2) 協議事項
 - ア 令和 4 ・ 5 年度の調査審議について
 - イ その他
- 7 その他
 - (1) 第 3、4 回専門部会の日程について
 - (2) その他
- 8 閉会

<会議録・質疑応答>

1 開会

事務局（船津係長）

2 部会長あいさつ

鈴木部会長

3 館長あいさつ

事務局（石川館長）

4 資料確認

事務局（船津係長）

5 第1回専門部会の議事録（案）について

事務局（小栗係長） 資料1について説明

6 議事

（1）報告事項

ア 市民館の管理運営について

事務局（船津係長） 資料2について説明

木村委員 現在の貸館の定員はどうなっているか。

事務局（船津係長） 原則、通常通りとなっている。

中道委員 体育室に設置されているCDプレイヤーが2台とも不具合があるので、確認して欲しい。

事務局（船津係長） 確認する。

中道委員 サークル連絡会で話題になることが多いのだが、体育室の使用時間帯について、とどろきアリーナのように、午後の時間帯を2分割できないものか。

事務局（船津係長） 使用時間帯については条例に規定されている事項のため、条例改正が必要になる。また、使用時間帯が変更になった場合には、利用料金についても併せて変更する必要がある。市民館の管理運営については、現在「市民館・図書館の管理・運営の考え方」などで議論がされているところなので、そのような中で整理されていくべきものと考えている。

イ 社会教育振興事業について

事務局（小栗係長） 資料3について説明

木村委員 今年度から始まった新規事業について教えて欲しい。

事務局（小栗係長） 社会教育振興事業は、教育委員会の要綱に基づき実施しているが、市民館の管理運営の議論に併せ、年齢に応じたライフステージ学習の考えを取り入れた。体系が変更されたため、変更部分の事業は今年度からの開始となる。

木村委員 新規事業があるということは、無くなった事業もあるということか。

事務局（小栗係長） 体系は変更されたが、枠組みを変えたものであることから、従来から実施していた事業を取りやめたということはない。

木村委員 年齢に応じた学習ということは、昔に戻ったということか。

事務局（小栗係長） 過去の学習体系を了知していないが、年齢に応じたライフステージ学習という考え方で進めると聞いている。

ウ その他

木村委員 前回欠席委員に、前回会議に先立ち、教育委員会の職員から受けた説明内容を伝えてほしいと依頼したが、どのようになっているか。

事務局（小栗係長） 前回欠席委員には、説明をする機会が無く、また今回の専門部会の開催にあたり、教育委員会から各委員に資料の配布を依頼されているので、この場を借りて簡単に説明をさせて頂きたい。教育委員会の資料によると、この間の「市民館・図書館の管理・運営の考え方（案）」に関する議論の一環で実施したパブリックコメントの結果、521件の意見があったこと、また、前回の会議に先立ち各委員へ説明のあった、「市民館・図書館の管理・運営の考え方（案）」については、「今後どのような管理・運営の手法が、その実現のために適しているのか」「生涯学習推進の拠点として最も市民ニーズに沿った市民館・図書館であるためにどうしたらよいか」という視点から策定し、手続きを経て確定に至った（案が取れた）と聞いている。

（２）協議事項

ア 令和4・5年度の調査審議について

鈴木部会長 この会議は2年の任期で行うことになる。審議にあたり、テーマを決定する必要がある。皆さんが今思っていることを語って頂きたいと思っているが、どうか。

日吉委員 前回の摘録によると、木村委員は指定管理者制度への移行の不安をおっしゃっているが、どのような点に不安を感じておられるのか、教えて頂けないか。

木村委員 私の前職は市民館職員で、最後は市民館長で退職している。自分たちのやってきた事、自分たちだけでなく諸先輩方がやってきた事があり、川崎には50年以上にわたる市民館の歴史があるので、それをいきなり指定管理という形にシフトしてしまうということについて、納得できない自分がいる。必要性が十分に考えられて、明らかにそちらの方が良いということがあれば、全く構わないし、市民の中できちんと議論が積み上げられて来た結果であれば、何も口を挟むものではない。私自身も川崎市民だが、市民ぐるみで討議をするようなことは無かったのではないかと、部分的にはワークショップなどを実施しているようだが、川崎市の社会

教育の歴史からみると、どんな事も、例えば地域教育会議が誕生した経緯についても、地区懇談会で話し合いを重ねて地域教育会議という組織の誕生に至っている。PTAなども含めて全て、職員と一緒に考えて、悩んで、何か良い方向に行かないかと取り組んできた歴史がある。大事な問題であり、単に予算を削減するために指定管理にして良いのかという忸怩たる思いがある。前回の会議で発言した「悔しい」という思いは、そういう意味である。全否定ということではなく、良くなっていくならば、指定管理者制度に移行しても構わないのだが、決定プロセスの中に、話し合いがきちんとされてきているのだろうかという疑問があり、パブリックコメントを実施したという資料があるが、すべての意見を反映できる訳ではないと思うし、一定期間市民の意見を聞く機会を設け、多少修正すれば確定というのはどうなのかという思いがある。この専門部会で2年間をかけて何を審議していくのかという時に、いずれ指定管理者制度に移行していくことを無しにして、議論することはできない。

日吉委員 今後指定管理者制度に移行していくことを踏まえて、この2年間の議論を行いたいということか。

木村委員 そうだ。

鈴木部会長 私も指定管理者制度を十分理解している訳ではないが、指定管理者制度自体の話をしていると時間が足りないのではないか。今は、この2年間で何をやっていこうか、どういうことをしてこうかという事を、語り合いたいと思っている。

菊地副部会長 4月から学校長として赴任したが、地域が温かいと感じている。同じ中学校区の4校の校長が毎月集まって議論を重ねているが、このような取り組みは今まで経験が無く、とても機能していると感じている。地域の情報交換や地域の方との関わり、子どもを小・中学校を見越して考えることができる。子どもにとってPTAはロールモデルなので、地域の方が学校に関わってくださるのは、とても有難いと感じている。市民館の活動も、地域の子供たちが大人になった時に、地域に戻って活動できるような取り組みに繋がると良いと思う。

鈴木部会長 同じ中学校区の校長が集まって議論するという取り組みは、良いと思う。

菊地副部会長 その他にも、わくわくプラザとも毎月話し合いの機会を持っている。地域教育会議の皆さんも積極的に関わってくださっていて、学校と地域を結び付けてくださっているので、地域が温かくて協力的と感じている。

鈴木部会長 自分が所属している団体からの発言でも構わないので、発言を頂きたい。

滝沢委員 以前に「敷居の低い市民館をめざして」というテーマで議論したこともある。それと関連するかも知れないが、市民館と地域との連携を議題にしても良いと思っ

た。市民館で実施している事業が知られていない。各団体や区民へ市民館をアピールしても良いのではないかと感じる。市民館の利用者が限られているように感じる。市民館の存在を知ってもらう事も必要なのではないか。

鈴木部会長 子ども会議に関わっているが、子ども会議のチラシを大量に印刷して、各学校へ配布したが、チラシを見て応募した参加者は1名のみだった。広報の難しさを感じた。先ほど来の指定管理者制度への移行についても、市民の関心を引いていないのではないかと感じる。

中道委員 サークル活動では、コロナ禍で会員が減少している。サークル祭に出展するサークルも以前は30団体以上あったのが、20団体程度まで落ち込んでいる。所属サークルでも会員数が30名程度から10名程度にまで減少している。どのようにしたら活動をPRできるのかが懸案で、SNSも利用するなど工夫している。

但野委員 中原市民館は立地条件がとても良いので、利用者が多い。ただ、市民館事業という観点からすると、サークル等にしても、集客が難しい状況がある。武蔵小杉駅周辺は居住者も多いし、活動したい人も多くいるようにも思うが、他方で市民館自体は大きくないので、体育室にしても予約を取るのが困難な状況になっている。立地の利便性と予約の上限にギャップがあるように感じる。

菊地委員 今の時代は子どもはとても忙しい。子どもはどうしても、保護者のコミュニティに影響を受けるので、そのことを考えて、10年後を見据えて、子育て世代の方に市民館を利用してもらう事を考えても良いのではないかと感じる。親御さんと一緒に市民館を利用した子どもたちが、市民館を肌で感じもらう。そのような視点でテーマを考えても良いのではないかと感じる。

事務局（船津係長） テーマを決めるにあたって、資料5について補足をさせて頂きたい。テーマの決め方には、特徴がある。例えば、幸市民館と麻生市民館は、現に抱えている市民館の課題をどう解決できるかという点に着目してテーマ化している事例となっている。宮前市民館と多摩市民館は、提言型になると思う。市民館の認知度の向上という大きなテーマに対して議論をして、全体的な提言をするというのが特徴となっている。もう1つ、アイデア提言型というのもある。教育文化会館、中原市民館、高津市民館などがそうだが、アイデアを出して、それに対して実践を加えるという手法である。資料5の裏面には、過去の中原市民館の専門部会の検討テーマが掲載されているので、テーマについては、大きく分ければ、先ほどの3パターンあると思うので、参考に方向性を決めて頂ければと思う。

鈴木部会長 時間もあるので、今回の議論はこの程度にして、テーマは、それぞれ資料などを参考に考えておいてもらいたいと思う。

木村委員 審議は、専門部会委員の方ですべきとは思いますが、参考までに、出席職員の皆さんにとって、こうなったら良いなとか、これまでの中原市民館での経験を踏まえて、感じていることを教えて頂きたい。専門部会委員だけが単独で考えるのではなく、館長以下の職員のみなさんは、地域の方々の意見を吸い上げて、地域の現状などを踏まえた上で、様々な市民館運営をしているのだから、現状で出来ている、出来ていないに関わらず、大切にしてきたこと、大切にしたいと思っていることなど、職員の思いも知りたい。

日吉委員 中原市民館の場合は、専門部会では、地域の課題をみつけて解決に向けた話し合いをしてきたとされていて、タワーマンション居住者と地域の人、市民館を利用する人と利用しない人に分かれていて、全員の意見を反映することは難しいことは承知しているが、区民意見を反映できる仕組みがあると良いと思う。シニアの方はシニアの方など、横のつながりが無いので、つながりを作るのがとても難しい地域ではあるのだが、つながりができる機会があると良いと思う。

事務局（小栗係長） 日吉委員の発言に共感するところがある。中原市民館に従事していて、サークル連絡会、文化協会、PTA、地域教育会議、寺子屋、子ども未来フェスタなど、それぞれと関わりを持たせて頂いた。とても素晴らしい活動をされていると思っている。各団体の中には親和性があるものもあるが、全く別に活動していることも多い。それぞれの団体が連携できたならば、より良い中原区になるのではないかと考えて、以前に、新中原市民館の10周年の際、市民館を借り切って、イベントを実施したことがある。各団体に出展頂き、賑わいとともに、横のつながりを作るのを企図したのだが、多くの来館者はあったが、1日限りのイベントだったこともあり、横のつながりを作るまでには至らなかったのが残念であった。

イ その他

特になし

7 その他

(1) 第3、4回専門部会の日程について

事務局（小栗係長） 次回日程についてお諮りしたい。資料の「令和4年度第3、4回中原市民館専門部会の開催候補日について」に出欠の可否を記入し、10月31日までに事務局まで提出して欲しい。日程が決まったら、お知らせする。

(2) その他

事務局（石川館長） 本日、各社の新聞報道で、旧統一教会が公共施設を使っているという記事が出た。中原市民館は9件だった。利用の可否は条例に基づき判断している。

8 閉会

中原市民館の管理運営についての現状（12月現在）

中原市民館の管理運営水準を適切に維持、向上する取組を実施しています。

中原市民館の管理運営に係る課題

1 貸館利用に関して

(1) 施設貸出備品の充実に努めること

11月からプロジェクター用のスタンド（キャスター付き）の供用を開始しました。

(2) インターネット回線を整備すること（再掲）

年度末までに貸館利用者が利用できるインターネット回線（有線 LAN）の整備拡充工事を予定しています。現状では、第1会議室、第2会議室、音楽室、視聴覚室で利用可能となっていますが、ホールなどを含め、さらに多くのお部屋で会議室利用者が無料で利用できるようにします。また、共用廊下等において、さらに広い範囲で「かわさきWiFi」が利用できるよう無線ルーターの増設及び配線の延伸工事も予定しています。

(3) 快適な利用環境の創出に努めること

空調の適切な温度管理を実施しています。その他、照明の間引き点灯を実施するなどの節電対策を実施しています。12月19日にはラウンジの高天井のダウンライトのLED化工事を実施し、さらなる節電が見込める予定です。12月初旬に和室の畳表替え、第5会議室の壁面を保護するストレッチャーガードの更新が完了しました。

2 施設の管理運営に関して

(1) 開館後13年の経過に伴う設備の老朽化対策（オーバーホール等）

11月休館日に空調室内機（パッケージエアコン）の洗浄清掃、ドレンポンプ等の交換、ホール用空調機の冷温水ポンプの消耗部品の交換を実施しました。また、3月までに不具合のあった誘導灯の交換工事を実施する予定です。

(2) 都市災害（水害）対策

台風や豪雨等に伴う浸水対応のため、メインの出入口と立体駐車場用に止水板を配備し、いつでも設置できるような体制を整え、併せて設置訓練も実施しています。

(3) 利用率向上対策

新型コロナウイルス感染拡大の動向に注視しつつ、供用備品等の充実を図りながら、無理のない範囲で利用率向上に努めていきます。

区分	事業名	事業趣旨	実施内容	実施状況														
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
	シニアの社会参加支援事業	シニア世代等を対象として、地域の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供し、シニア世代等の市民が、これまで社会で培った豊富な経験と知識、多様な能力を活かし、これまで関わりの少なかった地域社会での様々な活動に参加できるよう支援する。	○(仮)いきいき地域活動でのばそう健康寿命													2月17日～3月24日	↔	
	高齢者セミナー	高齢期の課題解決に向けた学習機会を提供する。また、学習を通じた、生きがいづくりや健康づくりを促進するとともに、幸福な高齢期をおくるための支援をする。	○目指せ！パワフルシニア！2022															
	家庭・地域教育学級	子どもを豊かに育む地域社会の創造を目指し、子育てに関する家庭・地域課題の学習機会を提供し、親として市民としての学びを支援する。	○親子でわははともだちといると、なんだかたのしいね															
	市民館保育活動	親等の学習活動への参加を促進し、乳幼児の社会的成長を支援するために、主催事業に適宜併設する形で保育活動を実施する。	識字学習活動、家庭・地域教育学級等を行う際に保育活動の実施を検討															
	保育ボランティア研修	子育てを支援する保育ボランティアの資質の向上に向けた学習機会を提供することにより、地域で支え合う子育ての環境醸成を図る。	○中原市民館保育ボランティア Kids サポーター2022															
	PTA家庭教育学級講師派遣	PTAが実施する家庭教育学級に対し、講師派遣等の支援を行うことにより、子どもの健全な成長に向けた学校・家庭・地域の連携による学習活動の振興を図る。	各単位PTAの企画により実施															
	子育て支援啓発事業	地域における身近な子育て関連情報を保護者等に幅広く提供するために、保護者同士の交流を図るための集会等の開催を行う。	○子育てみんなのひろば 就園までの子どもと保護者を対象 ○くるん赤ちゃん広場 ①5カ月までの子どもと保護者 ②6カ月からハイハイまでの子どもと保護者 (各月1回)															

実施する際は、ボランティアと協議

各学校PTAにて検討中、中原区PTA協議会(9月8日)

通年開催

区分	事業名	事業趣旨	実施内容	実施状況											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6 教育文化会館・市民館学習環境整備事業	専門部会	川崎市社会教育委員会会議規則に基づいて行う。	○中原市民館専門部会			会議の開催(年4回を予定)									
	刊行・広報活動	生涯学習に関する情報を提供するため、館だより、ホームページ等の作成を行う。	市民館だよりの発行、川崎市ホームページへの掲載、チラシの作成等			市民館だよりの発行(年6回程度を予定)									
						ホームページによる講座情報の発信(適宜)									
情報機器等整備	総合教育センター視聴覚センターの市民への直接的な窓口として、教文・市民館で情報機器等の貸出しを行う。				通年実施(適宜)										

令和5年度 市民自主学級・市民自主企画事業の企画選考について

1 市民自主学級、市民自主企画事業とは

中原市民館では、より暮らしやすい中原の「まちづくり」を目指して、地域（中原区）や社会の課題の解決に向けて、市民と市民館が協働で「市民の学びの場」をつくる市民自主学級・市民自主企画事業を実施します。

市民の皆さんからの提案に基づいて実施事業を決定し、企画から運営まで市民の皆さんに主体的に関わっていただきながら、中原区の生涯学習を推進していきます。

2 スケジュール（予定）

12月 1日（木）～ 募集案内の配布＜受付窓口＞

＜受付期間：1月6日（金）～1月20日（金）＞

2月 5日（日） 13時半～ 企画提案会；プレゼン
15時半～ 選考委員会；採点・選考

第4回
専門部会と
同日開催

3月上旬 社会教育委員会議で承認

3月中旬以降 選考結果を提案者へ通知

3 選考について

○各要綱の記述

- ・市民自主学級、市民自主企画事業の選考は、専門部会で行う。（川崎市教育文化会館・市民館市民自主学級開設及び市民自主企画事業実施要綱第7条）
- ・評価は、評価項目毎に5点の範囲内で採点し、専門部会の各委員が提案事業毎に30点を満点として採点する。（川崎市教育文化会館・市民館市民自主学級及び市民自主企画事業の選考・評価要綱第2条）
- ・出席委員の全員が満点と採点した場合の合計点の6割に満たないときは、選考しないものとする。（川崎市教育文化会館・市民館市民自主学級及び市民自主企画事業の選考・評価要綱第2条）

○企画提案書（別紙）

○採点表（別紙）

(第1号様式)

市民自主学級企画提案書		提案年数	<input type="checkbox"/> 初めて <input type="checkbox"/> () 年目
館名		提出日	年 月 日
学級名 仮称で結構です。			
企画意図 なぜこの学級を提案しようと思われたかについて簡潔にご記入ください。			
取り上げる課題 地域や社会の課題などを箇条書きでご記入ください。			
課題の解決 課題の解決に向けて考えていることをご記入ください。			
公益的な事業 地域に求められていると考える点や、実施することで期待できる地域への効果についてご記入ください。			
発展性 学級が終了した後、地域などでの学びや成果の広がりについてご記入ください。			
実施館との協働 協働で得られる効果や実施館と企画を考えていく取り組み方についてご記入ください。			

<p>主な学習内容</p> <p>①学習内容の大まかな流れ ②学習の進め方、学習方法など ③参加対象、会場 ④継続して提案する場合は、過去の事業との相違点や発展性についてご記入ください。 ⑤開設時期及び時間帯についてお考えのことをご記入ください。</p>	<p>⑤希望に○をつけてください。 1 おおよその時期（春・夏・秋・冬） 2 曜日（月・火・水・木・金・土・日） 3 時間帯（午前・午後・夜間） 4 特に希望なし</p>																
<p>希望学級</p> <p>短期・長期のどちらを希望していますか。</p> <p>保育の併設</p>	<p><input type="checkbox"/>短期学級(5～9回)</p> <p><input type="checkbox"/>長期学級(10～15回)</p> <p><input type="checkbox"/>併設を考えている <input type="checkbox"/>併設はしない</p>																
<p>経費</p> <p>おおよその内訳をご記入ください。</p>	<table border="1"> <tr><td>謝礼(講師等・保育謝礼)</td><td>円</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td>円</td></tr> <tr><td>印刷費</td><td>円</td></tr> <tr><td>通信費</td><td>円</td></tr> <tr><td>会場使用料</td><td>円</td></tr> <tr><td>物品借上料</td><td>円</td></tr> <tr><td>その他</td><td>円</td></tr> <tr><td>合計</td><td>円</td></tr> </table>	謝礼(講師等・保育謝礼)	円	消耗品費	円	印刷費	円	通信費	円	会場使用料	円	物品借上料	円	その他	円	合計	円
謝礼(講師等・保育謝礼)	円																
消耗品費	円																
印刷費	円																
通信費	円																
会場使用料	円																
物品借上料	円																
その他	円																
合計	円																

(消費税額及び地方消費税額を含む。)

提案する方・団体についてご記入ください。

<p>提案者・団体代表者</p>	<p>団体名</p> <p>個人で企画提案する場合は不要です。</p>	
	<p>フリがな</p>	
	<p>氏名</p>	
	<p>住所 電話番号 FAX番号 メールアドレス</p>	<p>住所：〒 -</p> <p>TEL： FAX：</p> <p>e-mail：</p>

これまでに、教育文化会館・各市民館・分館で実施された実績をすべてご記入ください。

実施年度	市民自主学級・市民自主企画事業の別（事業名）	実施館
年度	<input type="checkbox"/> 学級 <input type="checkbox"/> 事業（ ）	
年度	<input type="checkbox"/> 学級 <input type="checkbox"/> 事業（ ）	
年度	<input type="checkbox"/> 学級 <input type="checkbox"/> 事業（ ）	
年度	<input type="checkbox"/> 学級 <input type="checkbox"/> 事業（ ）	
年度	<input type="checkbox"/> 学級 <input type="checkbox"/> 事業（ ）	
年度	<input type="checkbox"/> 学級 <input type="checkbox"/> 事業（ ）	

※市民団体については次のものを添付してください。

団体規約（必ず）

会員名簿（必ず）

前年度活動報告書・決算書（書式自由）

今年度活動計画書・予算書（書式自由）

団体に関する申出書（第3号様式）

※個人情報については、川崎市個人情報保護条例に基づき事業執行の目的に限って使用します。

※提案が4年目以上の団体については、今年度の活動において下記のいずれかに該当する場合のみ提案出来ます。該当する番号に○をつけ、その具体的内容を下欄にご記入ください。

- 1 これまでの学習成果を活かし、地域における新たな学習活動へ発展することが見込まれる。
- 2 これまでの学習成果を活かし、地域の課題解決に取り組む市民活動へ発展することが見込まれる。
- 3 これまでの学習成果を成果物（報告書等）として公表し、地域への活用が見込まれる。
- 4 災害等により、市民学級を開設できなかった。

内
容

※個人については次のものを添付してください。

個人に関する申出書（第4号様式）

市民自主学級・市民自主企画事業の選考表

団体名

評価項目	評価基準	着眼点	評価欄	備考
1	課題の解決 地域や社会の課題を的確に捉え、課題に対し、効果的な学習となるよう配慮されていること。	・地域や社会の課題を取り上げているか。 ・課題解決に繋がる内容や手法が取られているか。	←優れていない 1 2 3 4 5 普通	優れている→
2	公益的な事業 公の事業として公平性・透明性が確保されており、誰もが参加できる拡がりを期待できること。	・提案者の興味・関心に留まっていないか。 ・学習の成果が市民に拡がることを期待できるか。	←優れていない 1 2 3 4 5 普通	優れている→
3	地域づくりへの発展 事業において、市民同士の多様な交流を図るとともに、終了後にグループ化など地域づくりへの発展が期待できること。	・参加者同士や事業に係わる人々が交流できるような内容を含んでいるか。 ・事業終了後、参加者が自主的な活動やボランティア活動、市民活動など社会参加に繋がる可能性があるか。	←優れていない 1 2 3 4 5 普通	優れている→
4	市民と実施設の協働 市民と実施設のそれぞれの特性を十分に活かして、単独で事業を展開するよりも、より高い効果が期待できること。	・協働で進めることにより、それぞれの特性を活かし、単独で展開するよりも、より高い効果が見込まれるか。 ・お互いが意見を出し合い、対等な立場での企画・運営が可能か。	←優れていない 1 2 3 4 5 普通	優れている→
5	地域を活かす 地域人材や地域資源の活用に配慮するなど、地域の特性や特色を活かした企画となっていること。	・地域人材や地域資源(自然、伝統芸能などに)配慮した企画となっているか。 ・地域にふさわしい魅力的な内容か。	←優れていない 1 2 3 4 5 普通	優れている→
6	予算の適正性 適正な予算を確保していること。	・予算の積算が適正であるか。 ・(個人に係る保険料や材料費など)適正に受益者負担がされているか。	←優れていない 1 2 3 4 5 普通	優れている→
1	評価は、評価欄の数字に○を記入することで評価してください。			/30
2	備考欄には気になる点や特に良かった点などをご記入ください。			

別表(第2条関係)

	評価項目	評価基準	着眼点
1	課題の解決	地域や社会の課題を的確に捉え、課題に対し、効果的な学習となるよう配慮されていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会の課題を取り上げているか。 ・課題解決に繋がる内容や手法が取られているか。
2	公益的な事業	公の事業として公平性・透明性が確保されており、誰もが参加できる拡がりを期待できること。	<ul style="list-style-type: none"> ・提案者の興味・関心に留まっていないか。 ・学習の成果が市民に拡がることを期待できるか。
3	地域づくりへの発展	事業において、市民同士の多様な交流を図るとともに、終了後にグループ化など地域づくりへの発展が期待できること。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者同士や事業に係わる人々が交流できるような内容を含んでいるか。 ・事業終了後、参加者が自主的な活動やボランティア活動、市民活動など社会参加に繋がる可能性があるか。
4	市民と実施館の協働	市民と実施館のそれぞれの特性を十分に活かし、単独で事業を展開するよりも、より高い効果が見込まれること。	<ul style="list-style-type: none"> ・協働で進めることにより、それぞれの特性を活かし、単独で展開するよりも、より高い効果が見込まれるか。 ・お互いが意見を出し合い、対等な立場での企画・運営が可能か。
5	地域を活かす	地域人材や地域資源の活用に配慮するなど、地域の特性や特色を活かした企画となっていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や地域資源(自然、伝統芸能など)に配慮した企画となっているか。 ・地域にふさわしい魅力的な内容か。
6	予算の適正性	適正な予算を確保していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の積算が適正であるか。 ・(個人に係る保険料や材料費など)適正に受益者負担がされているか。

(令和2・3年度)各市民館専門部会の検討テーマについて

教育文化会館

●テーマ	施設を有効活用した居心地の良いフリースペースの設置
●選定経緯等	人と人がつながる機会が求められ、誰もが気軽に集い、多様なつながりを育む「まちのひろば」などとして、教育文化会館に居心地の良いフリースペースを設置し、事業やサービスが展開できるよう検討した。
●提言等	カフェのプレ実施等を行ったが、次期（令和4・5年度）専門部会で検証し、より具体的なものにしていくものとした。

幸市民館

●テーマ	夢を実現する街 さいわい区を目指して
●選定経緯等	市民一人一人が実現したい夢を叶えるために、「つながる」「活用する」「学ぶ」の3つの視点から、市民館の具体的な役割を検討した。
●提言等	市民自主事業を市民の夢と捉え、市民館を舞台に夢を実現してもらうための、市民自主事業の応募規約の制限の見直し等、4つの施策を提言した。

中原市民館

●テーマ	地域を子どもと一緒に学ぶ中原市民館
●選定経緯等	「市民館は地域を学べる場所であってほしい。」「中原区にも、忘れてはいけぬ歴史がある。」「コロナ禍で子どもの活動ができていない」「子どもたちと一緒に活動するというのもよい。」などの意見を統合した。
●提言等	子どもと一緒に学ぶ事業の継続等、4つの施策を提言した。

高津市民館

●テーマ	高津市民館に行こう！～学びと交流の拠点～
●選定経緯等	コロナ禍に伴う共通エリアのベンチ撤去と、図書館やカフェなどがあっても、人が集中してしまいあふれてしまっているため、学生の勉強できるスペースができないかという発想を形にした。
●提言等	感染症対策として会話などをしない「自習スペース」を「MANABU」と名付けて令和2年8月1日からスタートした。

宮前市民館

●テーマ	人と人を繋ぐ市民館であるために
●選定経緯等	With コロナ時代の市民館の価値は何か？何をなすべきか？を常に考えながら、また鷺沼移転後の新市民館・図書館の新たな施策を協議した。
●提言等	地域の方に対し、市民館がどのように手を伸ばし、つないでいくか、出前事業の促進・アウトリーチの活性化等を提言として取りまとめた。

多摩市民館

●テーマ	市民館と地域の連携（市民館の認知度向上と地域資源の活用に向けて）
●選定経緯等	「生活様式が変わっていく中での関わり合いについて何か提案できないか」「市民館の活動状況はあまり知られていない」「市民館の理解が市民に伝わっていない」などの意見を統合した。
●提言等	市民館だよりのより一層の取り組み、対象者に応じた広報の実施、こども文化センター等への出前講座、オンライン講座の実施等を提言した。

麻生市民館

●テーマ	生涯学習活動の案内機能のあり方について
●選定経緯等	10年後の麻生市民館に求められる姿を想定した議論を重ね、事業や貸館等の物理的改善より「案内機能のあり方」の議論を進めることとした。
●提言等	生涯学習相談員による学習相談の改善に係る議論や、生涯学習関連施設等との連携による学習支援の構築等の取組を報告した。

（参考：過去の中原市民館専門部会の検討テーマ）

- 令和 2・3 年度 「地域を子どもと一緒に学ぶ中原市民館」
- 平成 30・31 年度 「中原市民館における多文化交流に向けた事業の実施について」
- 平成 28・29 年度 「中原市民館におけるシニアの社会参加事業等について」
- 平成 26・27 年度 「市民館を拠点とした生涯学習の推進」
「敷居の低い市民館をめざして」 計 2 テーマ
- 平成 24・25 年度 「中原区における生涯学習関連施設の連携に向けた取組み」
「社会教育振興事業の現状と課題」 計 2 テーマ